

PEOPLEの窓

みなさんの活躍
紹介します

審判歴30年 千歳市の野球を 盛り上げたい

千歳朝野球リーグ理事長

まきの みつひろ
牧野 満尋 さん



森町（旧砂原町）出身／75歳／住吉在住／1975年から（有）牧野自動車板金塗装工場を経営／30年にわたり野球の審判員として千歳市のスポーツを支え続ける／80歳まで現役を宣言

——審判員になつたきっかけ
選手として野球をしていましたが、若いころから審判に興味がありました。レベルの高い審判の技術を身につけ、正しい判定をすることで、自分が楽しんできた千歳市の野球を支え、盛り上げていきたいと思ひ続け、30年が経ちました。

——審判員として心がけていること
自分の判断一つで試合の流れが変わってしまうスポーツなので、試合中はすぐ集中しています。あと、試合ごとにテーマ（ボールが顔の近くに飛んできては瞬きしないなど）を決めて試合に望んでいます。緊張する場面もありますが、「自分の判断が試合を左右する」と常に思ひながらジャッジしています。審判は

目立ちませんが、そこがやりがいでもあり、誇りでもありますね。

——審判をしてきて、特に印象に残っていること
全国大会での最終回、1点差で2アウトランナー1塁の場面での牽制球です。レベルの高い試合でしたが、1塁の塁審をしていた私の「アウト」のコールで試合が終了してしまいました。審判としての判定には自信はありましたが、試合が終了したときは複雑な気持ちになりました。

——今後の目標
どこのまちも同じようですが、野球人口の減少と、審判員の高齢化・人手不足が心配です。千歳市の人口と同じように野球人口が増え続け、千歳市といえは《野球》というまちになるまで頑張ります。あと、個人的な目標ですが、80歳まで現役を続けることが一番の目標です。

——審判員に興味のある方へ
審判は誰よりも近くで試合を見ることができ、野球が好きなら最高の場所です。長く続けていると審判の技術が向上し、試合に行くのが楽しくなります。あと、仲間もたくさんでき、毎日が楽しくなりますよ。一緒にやりませんか。

先生、教えて!



肝炎の診断について



市立千歳市民病院
消化器科主任 平石 哲也

今回は、持続感染を起こす《肝炎ウイルス》についてご紹介いたします。

持続感染を起こすウイルスには、B型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）があり、いずれも血液感染（血液や粘液の介在）により体内に侵入します。

以前は、HBV感染の多くは母子感染（垂直感染）でしたが、現在は出産の際、出生児に感染予防対策を行うためほとんどみられなくなりました。最近では、性交渉などによる成人の感染（水平感染）が増えています。基本的には、一過性感染が多いですが、東南アジアから流入してきたタイプでは持続感染となることがあります。

HCVの感染経路は、1989年以前の輸血治療、適切な消毒がされていない器具を用いた入れ

墨・ピアスの穴開け、注射器の共用などです。持続感染すると肝臓に常に炎症が起き、何十年も続くと肝硬変に進行します。

この間、ほとんど症状はありませんが、肝硬変になると皮膚が黄色くなり（黄疸）、お腹に水が溜まり（腹水）、性格の変化（肝性脳症）がみられます。また、肝臓癌が出現する可能性が高くなります。

治療は、肝炎の進行を抑えるためにウイルスを抑える薬が用いられます。HBVでは継続した投薬により進行を抑え、HCVでは2〜3か月の投薬によりウイルスを高確率で排除することができます。

肝臓は沈黙の臓器と言われる、病気に気づきにくい臓器です。HBV、HCVは肝炎ウイルス検診で検査することができ、ぜひお受けになる事をお勧めします。